

第20回日本マレーシア学会(JAMS)研究大会 プログラム

大会委員代行 西尾寛治

大会準備委員 福島康博

- 日程：2011年12月10日(土)、11日(日)
- 会場：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階大会議室
(〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1)
- アクセス：JR 中央線：「武蔵境駅」のりかえ、西武多摩川線「多磨駅」下車、徒歩5分
京王線：「飛田給駅」下車、駅北口より多磨駅行き京王バス「東京外国語大学前」下車
飛田給駅北口からは日中約25分間隔、バス所要時間約10分。
ホームページ：<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/about/access>
- 問い合わせ先：福島康博 (fukushima@aa.tufs.ac.jp)
- 共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 コタキナバル・リエゾンオフィス
- プログラム
- ◆ 12月10日(土) 13:00 受付開始
- 13:00-13:10 開会挨拶 福島康博(大会準備委員、東京外国語大学)
- 13:10-16:25 個別研究
司会：吉村真子(法政大学)
- 13:10-13:50 報告(1) 都築一子
「ロガン・ブヌット国立公園の中・隣接地に住むブラワン(Berawan)の焼畑と漁業：生計向上を図りながら自然環境保全をする課題」
- 13:50-14:30 報告(2) 小野真由美(早稲田大学)
「越境化するケアと日本人退職移住者：マレーシア・マイ・セカンドホーム・プログラムとメディカルツーリズムの動向から」
- 14:30-15:10 報告(3) 野中葉(慶應義塾大学)
「マレーシアのダクワ運動とインドネシアの大学ダアワ運動の接点(試論)」
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-16:00 報告(4) 鷺田任邦(慶應義塾大学)
「マレーシア2008年総選挙での与党後退と有権者の態度変化」
- 16:00-16:40 報告(5) 三木敏夫(札幌学院大学)
「第十次五カ年計画とブミプトラ政策」

16:40-16:50 休憩

16:50-17:50 会員総会

18:00-20:00 懇親会 会場：大学会館 1 階ホールダイニング（参加費：1,500 円）

◆12 月 11 日(日) 9:30 受付開始

JAMS 結成 20 周年記念企画シンポジウム

「ヤスミン・アフマドにみる映画とマレーシア——グローバル的混成社会における大衆文化」

主催： 日本マレーシア学会、マレーシア映画文化研究会（JAMS 連携研究会）

共催： 京都大学地域研究統合情報センター共同研究「大衆文化のグローバル化に見る包摂と排除の諸相—マレーシア映画を事例として」（代表：篠崎香織）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 コタキナバル・リエゾンオフィス

【趣旨説明】

今日、日本の映画業界や映画ファンのあいだで映画を通じたマレーシアへの関心が高まっている。とりわけ、6つの長編作品を遺して2009年7月に急逝したヤスミン・アフマド監督の作品は多くの人々に注目され、特に遺作となった『タレントタイム』（2008）は日本各地で上映会が催されている。ヤスミン作品を通じてマレーシアにはじめて触れたという人も多く、今や『タレントタイム』などのヤスミン作品を抜きにしてマレーシアを語ることに難しくなっていると言っても決して言い過ぎではない状況が生まれている。

このシンポジウムでは、映画史とマレーシア社会のそれぞれにおいてヤスミン監督とは何だったのかを考えてみたい。第1セッションでは、マレーシア国外に活動の場を積極的に求める監督たちや従来ほとんど目が向けられてこなかったインド系やサバ州の作品を紹介することを通じて、今日のマレーシアの映画業界の複層性を捉えてみたい。第2セッションでは、第1セッションで見るように複層的なマレーシア映画業界にあって、各層の特徴を取り入れながら作品を作り上げ、6つの作品を遺して世を去ったヤスミン監督とは何だったのかを、映画史とマレーシア社会のそれぞれの側面から捉えてみたい。

ヤスミン作品を映画史とマレーシア社会の双方から捉えようとする中で、世界が抱える課題とマレーシアが抱える課題の接点としてのヤスミン作品の意義が浮き彫りになるだろう。このことは、ヤスミン作品への理解を深めることにとどまらず、国外とのつながりを維持したさまざまな人々から構成され、それ自体が1つのグローバル的な混成社会として成り立っているマレーシア社会への理解を深める上でも有意義なものとなるはずである。

10:00-12:00 参考上映『タレントタイム』(Talentine)、2009年、ヤスミン・アフマド監督、120分、日本語字幕あり(マレーシア映画文化研究会版)

12:00-13:00 談話会(『タレントタイム』ほかヤスミン作品に関する談話会)

※談話会は、参考上映の後、希望者が会場に残って自由に感想や意見を交換する時間です。昼食持参でお越しください。出入り自由なので途中からの参加も歓迎します。

13:00-16:20 シンポジウム「ヤスミン・アフマドにみる映画とマレーシア——グローバル的混成社会における大衆文化」

趣旨説明 篠崎香織(北九州市立大学)

第1部「マレーシア映画の複層性」

司会:西芳実(京都大学)

報告(1)篠崎香織「マレーシア新潮流と映画祭—外部世界のまなざしで開くオールタナティブ」

報告(2)深尾淳一(映画専門大学院大学)「マレーシアのタミル語映画を概観する」

報告(3)山本博之(京都大学)「サバ州のテレムービーに見る「陸の民」と「海の民」」

第2部「ヤスミン・アフマドとは何だったのか」

モデレーター:深尾淳一

趣旨説明 深尾淳一

パネリスト 石坂健治(日本映画大学/東京国際映画祭「アジアの風」部門プログラミング・ディレクター)「ゼロ年代の世界映画とヤスミン・アフマド」

パネリスト 山本博之「ヤスミン・アフマドを生んだマレーシア」

パネルディスカッション

総合討論

16:20-16:30 閉会挨拶 宮崎恒二(会長、東京外国語大学)